

# 大阪大学 図書館報

Vol.39 No.2 (2005年10月)

## 目次

図書館について思うこと	-----	1
シリーズ「私が語るこの資料」		
新聞のスポーツ記事から人間の行動特性を読み取る	-----	2
教員著作寄贈図書	-----	5
お知らせ	-----	7
会議・日誌	-----	8

## 図書館について思うこと

占部伸二

この度、附属図書館の豊中地区運営委員会委員長を引き受けることになりました。これまで自分の経歴を振り返ってみますと図書館に直接関連した仕事はほとんどありません。図書館と言えば、学生時代に自習やレポート作成の時に利用したことや、大学を卒業後、研究所に勤めてからは文献調査などの利用者という立場のみです。果たして自分で勤まるのやらというやや心細い気分です。

私は学生時代から本が大好きでした。ただ必要な本は、専門書や小説類などの一般書を含め、できるだけ自分で買うようにしてきました。私の場合、図書館から借りた本は読んでいて何かしっくりこないからです。気に入ったところに印を付けたり、書き込んだりすることもできま

せん。また、何かの折りに引用したい、もう一度確認したいと思ってもすぐに取り出せないなどの理由からです。これまで幾度も引越しをしてきましたが、積もり積もった重い本類が悩みの種で、その度に近くの図書館に寄付したりして処分してきました。今から考えると随分無駄な本を買い込んでしまったと思います。一方、私の家内は図書館の積極的な利用者です。近くの自治体の図書館に行けば必要な情報を入手してきます。こんな便利な所を使わない手はないと言っています。確かに図書館に行けば面白い本、読みたい本を自由にまた無料で借りることができます。絶版となって手に入らない本、個人で購入不可能な高価な本などを利用でき、多くの情報を得ることができます。図書館の積

極的な利用は非常に合理的です。学生生活の場合、さらに静かで環境の良い学習空間の確保、空いた時間などの有効利用など、使い方次第で非常に有効に使うことができます。また重要なことは、知的な好奇心や学習意欲が増す環境に浸ることができるなど文化的な知的空間を提供してくれることです。

研究を行う場合、図書館の充実した文献や技術情報サービスは必要不可欠なものです。私は大学を卒業して東京にある国立研究所に勤めました。電気通信、電波関係の研究所です。図書関係あるいは技術情報のサービスは、大学の規模とは比較になりませんが、専門のセクションもあり、今から考えるとそれなりに充実していたと思います。研究所時代に図書の問題について切実に感じたのは、新たにできた支所に勤務したときです。17年ほど前ですが、勤務している研究所が神戸市に支所を設立しました。私は支所の中の研究室の初代室長として勤務することになりました。スタートということであるような問題がありましたが、一つは図書を含めた情報サービスなどの研究環境の問題でした。

(うらべ・しんじ 豊中地区運営委員会委員長、基礎工学研究科教授)

## シリーズ「私が語るこの資料」

### 新聞のスポーツ記事から人間の行動特性を読み取る - プロ野球における日米のホーム・アドバンテージ比較 -

釘原直樹

#### 1. はじめに

筆者は、新聞等のスポーツ欄に掲載されているプロ野球の記事を資料として使い、日米のホーム・アドバンテージの特徴を明らかにすることを試みた。数あるスポーツの中で精密かつ長期間のデータが日米両国において存在するのはプロ野球のデータのみである。そこでプロ野球のデータに基づいてホーム・アドバンテージに影響する諸要因、例えば試合の重要性、移動距離、観衆効果、フランチャイズの変更、の影響について検討した。図書館に身近に存在する資料でこのような考察も可能なことを知っていたできれば幸いである。

#### 2. 対象データ

レギュラーシーズンに関しては1962年から2001年までの40年間のデータを分析対象とした。ワールドシリーズと日本シリーズに関しては1951年から2001年までのデータを分析した。ただし、日本の場合、一方のチームが4戦全勝

当然のことながらすぐには充実した図書類を整備することは不可能でした。現在では電子ジャーナルの出現で全く問題になりませんが、当時としては重大な問題でした。研究環境が悪くなるので異動を拒否した研究者もいました。図書に関しては必要最低限の学術雑誌類は新たに購入することはできましたが、過去の文献やその他の学術雑誌については、本所の図書館からのコピーサービスで対応してもらいました。すぐに知りたい文献が到着するのに一週間程度待たされてやきもきしたのを思い出します。充実した図書類や技術情報のサービスのありがたさを身にしみて味わった貴重な経験です。

図書館の活動は比較的地味で縁の下の力持ちのような目立ちにくいものですが、知的基盤という観点から考えると非常に重要です。最近では電子化やインターネットの普及により情報の収集、保存、提供方法が大きく変わりつつあります。大学の法人化による環境の変化などを含め附属図書館も過渡期ともいえる時期にあると思われます。微力ながらいくらかでもお役に立ち、協力できればと思っております。

したケース(1957、59、60、90の各年)は分析対象から除外した。引き分け試合が含まれるケース(1953、62、75、86年)とホーム球場が同一のケース(1981年)も分析対象とはしなかった。

データは1951年から1961年までの朝日新聞とベースボール・レコードブックの1962年から2001年までのデータを収集した。一方大リーグの方はBaumeister and Steinhilber (1984), Schlenker, Phillips, Boniecki and Schlenker (1995) の論文中のデータとThorn, Palmer and Gershman (2001)のデータを採用した。

#### 3. 分析結果

##### 3.1 共通面

分析結果からホーム・アドバンテージに関して日米に共通する面と異なる面があることが明らかになった。共通する面としては第1に両国ともに53~54%のホーム勝率があり、殆ど差がないことである。第2は移動距離の影響に明確

な差は見出されなかったことである。第3は方略的有利性、即ち後攻と先攻の差は米国の研究と同じく全く存在しないことが明らかになった。

### 3.2 異なる面

一方異なる面としては第1にシリーズのような重要な試合で日米の差が顕著になることが明らかになったことである。すなわち日本シリーズのホーム・アドバンテージの程度はワールドシリーズのそれよりも低く、そしてその差は日米のレギュラーシーズンの差よりも大であった。このことから日本選手の方がアメリカ選手に比べて重要な試合で力を発揮できない傾向があることが示唆される。

第2は、若干ではあるがプロ野球に関して米国のほうが日本よりホーム・アドバンテージの程度が高いことが示されたことである。過去40年間のデータを一对比較すれば3/4近くは米国のホーム勝率が日本のそれより上回っていた。サッカーに関しては諸外国と日本の差はプロ野球より大きい。英、独、仏のホーム勝率と日本のJリーグのホーム勝率は順に60、62、65、53であった。ただし日本のプロサッカーは1993年に始まり、その歴史が浅いために、ヨーロッパ諸国と単純に比較することはできないかもしれない。それから野球に関しては1992～2001の最近10年間に限ってはアメリカの方が日本に比べてホーム・アドバンテージが高かった年が6回、日本が4回で日米差は小さくなっていく傾向にあるのかもしれない。

第3は観衆の効果である。観衆が選手の攻撃性に与える影響に関する従来の諸研究では見解が分かれている。例えばGlamser (1990)はアウェイ・チームの方が攻撃的になるという結論を得ているが、Schwartz and Barsky (1977)はホーム・チームの方が攻撃的になることを明らかにしている。著者の分析結果は若干ではあるが日米間に逆の傾向が存在することを明らかにした。即ち観衆の数が増えれば米国のホームチームは勝率が上昇するのに対して日本のチームは変化がなかった。また観衆数の増大は米国では攻撃的な面を促進し、日本では防御的な面を促進することも明らかになった。

第4はフランチャイズ変更後の順応の速さである。フランチャイズの変更後の10年間のホーム・アドバンテージの変動に関して、日本の球団は最初の5年間はホーム・アドバンテージの程度が低い。一方アメリカは移動直後から一貫してホーム・アドバンテージが存在することが明らかになった。すなわちアメリカの方がフランチャイズに対して早く順応することが明らかになった。

### 3.3 日米の違いの要因

このように日米の違いが存在することが明らかになったが、問題はそれを次のどの要因に帰

属すべきか明確でないことである。その第1は選手の行動に影響する文化的背景である。例えば日本の方が米国よりホーム・アドバンテージの程度が低いことやフランチャイズ変更後の順応が遅いことの一つの理由としては日本人の頑張り精神が考えられる。しかし一方では日米間に努力に関する価値観に殆んど違いはないとする報告もある。2004年1月に発表された内閣府による第7回世界青少年意識調査(平成16年1月内閣府政策統括室 総合企画調整担当 第7回世界青少年意識調査結果概要速報)によれば「社会に出て成功するのに重要なものとして努力を挙げた割合は日本75.6%、米国72.2%、韓国67.5%、スウェーデン66.4%、ドイツ56.8%であった。この結果によれば日米共に他国より努力を重視している傾向が伺える。ゆえに他の要因を無視してこの要因だけでホーム・アドバンテージの日米差を説明するのは無理がある。

第2はプロ野球のシステムの違いがホーム・アドバンテージの違いに影響している要因かもしれない。日本では企業が球団を支えていて、球団名も多くが企業の名前を冠している。そのため米国ほど地域とのつながりが強いわけではない。

第3は戦術が日米間で異なっている可能性もある。1999年から2003年のドラフトによる日本プロ野球全球団の入団者数は410名で、その内の投手数は217名で割合は約53%である。さらにドラフト1位と自由獲得枠の選手に限れば69名のうち50名(72%)は投手である。それに対して大リーグの場合はドラフト5順目までの入団者数は818名で投手は419名(51%)である。

ドラフト1位の選手に限れば全入団者数は213名で投手は114名(54%)である。ドラフト1位と自由獲得枠の選手に限れば日本の方が米国より投手の占める割合が明らかに多い。このことから日本の監督やコーチは米国に比べて攻撃力より投手力(防御力)を重視している可能性がある。米国ではホームでの観客数の数と得点数に弱い正の相関があり、日本では失点数と負の相関があるのは、監督やコーチの投手起用の違いを反映している可能性がある。即ち日本ではホームでは攻撃より優秀な投手の起用による防御力に力を入れているのかもしれない。またホーム・アドバンテージの程度が日本の方が低いのは試合毎に変動する可能性が高い攻撃力より、相対的に安定した防御力を重視していることに起因している可能性もある。

### 4.まとめ

以上ホーム・アドバンテージの日米差の原因として努力の価値づけ、ホームとアウェイの知覚、攻撃と防御の重視の程度の差が考えられる。そこで将来の研究としては第1に、この3種の

要因のうちいずれがホーム・アドバンテージに最も影響しているのかを明確にする必要がある。第2はこれらの要因について日米差があるとしたら広い文化的背景があるのか、あるいは

スポーツ、特にプロ野球固有のものか明らかにすべきだと思われる。そのためにはスポーツ以外の分野である、例えば戦争や経済について比較分析することも必要だと思われる。

(くぎはら・なおき 人間科学研究科教授)

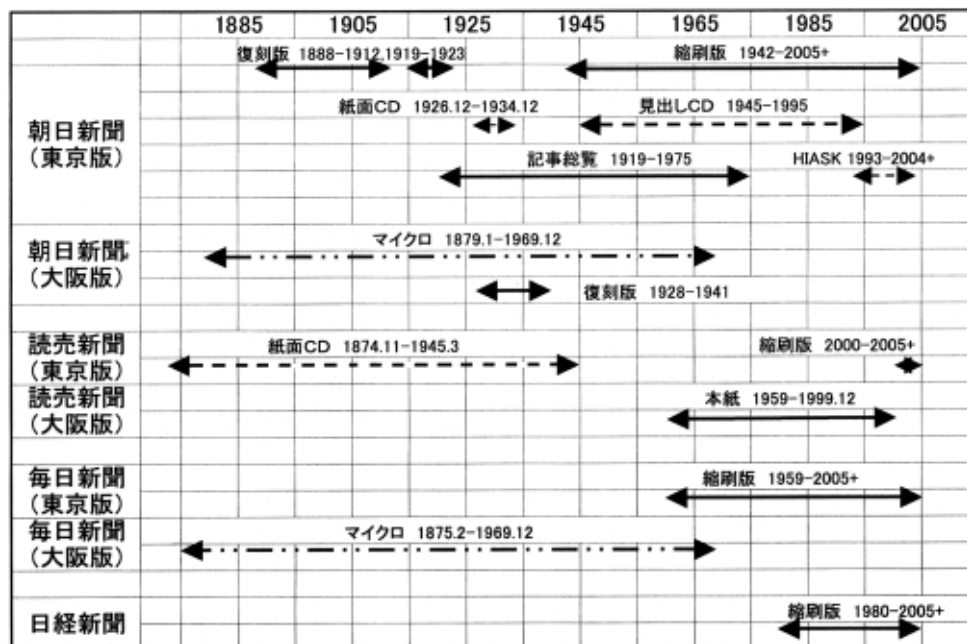
釘原先生利用資料

- ・ベースボール・マガジン社 [編]. 日本プロ野球記録年鑑 = Baseball record book. 東京, ベースボール・マガジン社
- ・朝日新聞 附属図書館蔵
- ・Baumeister, R. F. ; Steinhilber, A.. Paradoxical effects of supportive audiences on performance under pressure : the home field disadvantage in sports championships. Journal of Personality and Social Psychology. Vol.47, 1984, p.85-93. 人間科学研究科図書室蔵
- ・Schlenker, B. R., Phillips, S. T., Boniecki, K. A. & Schlenker, D. R.. Championship pressure : choking or triumphing in one's own territory?. Journal of Personality and Social Psychology. Vol.68, 1995, p.623-643. 人間科学研究科図書室蔵
- ・Thorn, John et al. Total Baseball : the official encyclopedia of Major League baseball. 7th, ed. New York, Total Sports, c2001, 2502p. (ISBN 1-93084-401-8)

附属図書館で現在購読している日刊紙

タイトル(略紙名)	朝日新聞	毎日新聞	読売新聞	産経新聞	日本経済新聞	日経産業新聞	日刊工業新聞	人民日報国内版	人民日報海外版	朝鮮日報	Herald Tribune 朝日	The Japan Times	The Times	Daily Yomiuri	Die Welt	Frankfurter Allgemeine	Известия	New York Times	Le Monde
本館(6ヶ月間保存)	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
生命科学図書館(3ヶ月間保存)	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
吹田分館(1年間保存)	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

本館にある国内新聞バックナンバー等早見表



欠号がありますので、所蔵巻号詳細はOPACで確認してください

## 教員著作寄贈図書

(2005. 4 - 8)

本 館	
中埜 芳之 (言、教授)	ドイツ人が見た日本：ドイツ人の日本観形成に関する史的研究 / 中埜芳之著 東京：三修社, 2005
山下 眞弘 (法、教授)	会社訴訟をめぐる理論と実務 / 岡本正治[ほか]編 東京：中央経済社, 2002
	やさしい手形小切手法 / 山下眞弘著 東京：税務経理協会, 2003
	やさしい商法総則・商行為法 / 山下眞弘著 第2版 東京：法学書院, 2004
	やさしい商法：総則・商行為 / 山下眞弘著 補訂版 東京：税務経理協会, 2004
渡曾 仁 (理、教授)	Interfacial nanochemistry : molecular science and engineering at liquid-liquid interfaces / edited by Hitoshi Watarai, Norio Teramae and Tsuguo Sawada (Nanostructure science and technology / series editor, David J. Lockwood) New York : Kluwer Academic / Plenum Publishers, 2005
大平 充宣 (医、教授)	落下・航空機実験ガイドブック：短時間微小重力実験を目指して / 日本宇宙フォーラム宇宙利用技術推進部編集 東京：日本宇宙フォーラム宇宙利用技術推進部, 2005
内藤 高 (文、教授)	明治の音：西洋人が聴いた近代日本 / 内藤高 (中公新書；1791) 東京：中央公論社, 2005
生命科学分館	
中村 仁信 (医、教授)	放射線画像医学 / 稲本一夫, 別府慎太郎編集 (医用放射線科学講座；7) 東京：医歯薬出版, 1997
西原 力 (名誉教授)	環境と化学物質：化学物質とうまく付き合うには / 西原力著 (大阪大学新世紀セミナー) 吹田：大阪大学出版会, 2001 (薬学研究科図書室にも寄贈)
	西原力教授業績PDF集 [出版地不明] : [出版者不明], 2005
	西原力教授講演ビデオ-[ビデオ(ディスク)] [出版地不明] : [出版者不明],[2005?]
奥 健夫 (産、助教授)	Consciousness, life and cosmology : harmony of human beings and the universe = 意識・生命・宇宙論：人間と森羅万象の調和 / 奥健夫監修；奥健夫, 西脇篤史, 今西貴之著 名古屋：三恵社, 2004
	Hologram of mind and life : spirituality encounters superstring = 心と生命のホログラム：スピリチュアリティと超弦の出会い / 奥健夫監修；奥健夫 [ほか] 著 名古屋：三恵社, 2005
前田 芳信 (歯病、教授)	スポーツは良い歯から / 前田芳信編著 吹田：大阪大学出版会, 2005
今里 聡 (歯、助教授)	フッ化物徐放性修復材料ガイドブック / 千田彰編著 京都：永末書店, 2005
山本 容正 (医、教授)	Chlamydia pneumoniae : infection and disease / edited by Herman Friedman, Yoshimasa Yamamoto, and Mauro Bendinelli (Infectious agents and pathogenesis) New York : Kluwer Academic/Plenum Publishers, c2004

吹田分館	
村川 英一 (接、教授)	The proceedings of International Workshop on Development and Advancement of Computational Mechanics : in celebrating Professor Satya N. Atluri's 60th birthday, International Conference Center, Kobe, April 22-23, 2005 / [organizing committee] Toshihisa Nishioka... [et al.]. [S.I.] : [s.n.], 2005
大野 義照 (工、教授)	図解鉄筋工事 / 大野義照 [ほか] 共著 東京 : 東洋書店, 2005
舟橋 國男 (名誉教授)	都市居住の安全と福祉 / 大阪大学全学共同研究「都市居住の安全と福祉」研究会 [編] 大阪 : 大阪大学全学共同研究「都市居住の安全と福祉」研究会, 2005 (人間科学研究科図書室にも寄贈)
柏原 士郎 (名誉教授)	建築デザインと環境計画 / 柏原士郎編著 ; 田中直人 [ほか執筆] 東京 : 朝倉書店, 2005
薦田 憲久 (情、教授)	ビジネス情報システム / 薦田憲久, 水野浩孝, 赤津雅晴共著 東京 : コロナ社, 2005
人間科学研究科図書室	
太郎丸 博 (人、助教授)	人文・社会科学のためのカテゴリカル・データ解析入門 / 太郎丸博著 京都 : ナカニシヤ出版, 2005
薬学研究科図書室	
西原 力 (名誉教授)	内分泌攪乱化学物質の生物試験研究法 / 今井清 [ほか] 編集 東京 : シュプリンガー・フェアラーク東京, 2000
	防菌防黴剤の開発と展望 / 西原力, 高麗寛紀監修 東京 : シーエムシー, 2005
	環境ホルモンの最新動向と測定・試験・機器開発 東京 : シーエムシー出版, 2003
	検証「環境ホルモン」: 環境・生体攪乱物質のバイオサイエンス / 樽谷修本間慎編 東京 : 青木書店, 1999
	科学技術と人間のかかわり / 畑田耕一, 宮西正宣編 2 吹田 : 大阪大学出版会, 2001
	環境リスクマネジメントハンドブック / 中西準子 [ほか] 編集 東京 : 朝倉書店, 2003
	新ウェルネス栄養学 : 第7次改定「食事摂取基準」準拠 / 西原力編 第2版 (大阪大学新世紀レクチャー) 吹田 : 大阪大学出版会, 2005
	生物工学ハンドブック / 日本生物工学会編 東京 : コロナ社, 2005
微生物病研究所図書室	
上田 重晴 (名誉教授)	抗菌・抗カビの最新技術とDDSの実際 : SARS, 新興感染症対応から製品設計・評価まで / 上田重晴, 西野敦監修 東京 : エヌ・ティー・エス, 2005

(敬称略、受領順)



## お知らせ

### 館内での飲料利用について

ペットボトルや水筒など、密閉可能な蓋つき容器に入った飲み物に限って、館内への持ち込み・ご利用ができるようになりました。つきましては、次の注意事項を守ってください。

- ・ 図書館資料・机上を濡らしたり汚したりしないで下さい。
- ・ 缶やカップなど、密閉できない容器に入った飲み物の持ち込みは、禁止です。
- ・ 本館の書庫棟内では密閉可能容器でも飲用はご遠慮ください。

### 生命科学分館系図書館・室間での学内便による文献複写の取り寄せについて

生命科学分館系の図書館・室（生命科学分館、薬学研究科図書室、微生物病研究所図書室、蛋白質研究所図書室）間において、公費による文献複写を学内便で取り寄せできるようになりました。

### 本館の一部業務の受付時間延長

相互利用カウンター : 学内から取寄せた本の貸出・返却 : 閉館30分前まで(土・日も含む)  
: 学外から取寄せた本の返却 : 閉館30分前まで(土・日も含む)  
メインカウンター : 学生購入希望図書の受付 : 閉館30分前まで(土・日も含む)

### 「近畿イニシア」発足する：阪大は能力開発専門委員会主査館に

近畿地区における国公私立の館種を超えた大学図書館協力組織である、『大学図書館近畿イニシアティブ(略称「近畿イニシア」)』が6月21日に発足しました。運営委員会とそのもとに能力開発専門委員会と広報検討専門委員会が設置されました。大阪大学は能力開発専門委員会の主査を担当することとなり、同専門委員会として12月に近畿地区における合同初任者研修会を開催すべく検討を行っております。

### 利用者説明会を開催

<生命科学分館> 7月1日 10:00~16:30 生命科学分館AVホール(参加数95名)

対象: 医学系研究科博士課程1年次(必修)

内容: 特別科目(機器分析セミナー)「医学情報へのアプローチ」、検索実習

<吹田分館> 7月12日 15:00~16:30 吹田分館会議室・分散端末室(参加数14名)

対象: 環境・エネルギー工学専攻・量子ビーム応用工学領域専攻 学部生・大学院生

内容: 文献講習会: 「雑誌記事索引」「INSPEC」電子ジャーナルの説明、利用方法

### 京都国立近代美術館「須田国太郎展」に大阪大学所蔵の能狂言デッサンを出展

来る11月1日(火)から12月18日(日)まで、京都国立近代美術館で「須田国太郎展」が開催されます。この展覧会に、大阪大学所蔵の能狂言デッサンが22件出品されます。また、11月6日(日)には天野副館長の講演会も予定されています。

## 会 議

図書館委員会 7.8(金)10:00~11:12

1. 来年度の開館計画について審議し、夏季休業期間における開館時間の短縮実施案は、見送られた。

生命科学分館運営委員会 7.26(火)13:30~14:20

1. 平成18年生命科学分館購入雑誌選定について協議した。
2. Nature関連誌の電子ジャーナルの購入について協議した。
3. データベース(Faculty 1000)の新規導入について協議したが、購入しないこととなった。
4. 平成17年度生命科学分館備付学生用図書及び視聴覚資料の選定について協議し、原案どおり了承された。
5. 生命科学分館資料の不用決定について協議し、原案どおり了承された。

附属図書館豊中地区運営委員会 7.28(木)10:30~11:23

1. 重点経費措置による学生図書費の配分案と選定方法について審議し、承認された。
2. 本館の図書の不用決定について審議し、承認された。

吹田地区運営委員会、工学研究科・工学部図書委員会合同委員会 8.10(水)14:00~15:10

1. 平成17年度学生用図書ほかの選書結果及び予算執行計画について報告があり、協議の結果了承された。
2. 平成17年度重点経費学生用図書の整備計画について報告があり、協議の結果了承された。
3. 平成17年度吹田分館の重点課題について実施状況の報告と協議が行われた。

## 日 誌

17. 6. 2	第2回近畿地区大学図書館委員会(仮称)設立準備会	(本館)
6. 10	第74回近畿地区国公立大学図書館協議会総会	(滋賀県立大学)
6. 21	大学図書館近畿イニシアティブ運営委員会	(関西学院大学)
6. 30	第52回国立大学図書館協会総会	(名古屋大学)
7. 1	国立大学図書館協会マネジメント・セミナー	(名古屋大学)
7. 8	図書館委員会	(本館)
7. 22	図書館経営問題委員会	(本館)
7. 25	生命科学分館図書選定小委員会	(生命科学分館)
7. 26	生命科学分館運営委員会	(生命科学分館)
7. 28	豊中地区運営委員会	(本館)
8. 10	吹田地区運営委員会資料選定小委員会	(吹田分館)
〃	吹田地区運営委員会、工学研究科・工学部図書委員会合同委員会	(吹田分館)

大阪大学図書館報 Vol. 39 No. 2  
発行所 大阪大学附属図書館

通巻 155号 2005年10月31日発行  
〒560-0043 豊中市待兼山町1の4 06(6850)5070  
e-mail: sanko-honkan@library.osaka-u.ac.jp